



書
評

今日の耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科治療指針 第4版

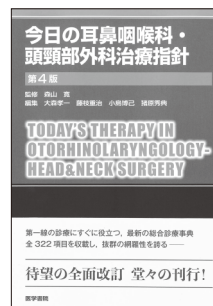
監修：森山 寛

編：大森孝一，藤枝重治，小島博己，猪原秀典

A5・頁736 2018年06月 定価：本体16,000円＋税

[ISBN978-4-260-03452-4] 医学書院 刊

<書評者> 山中 昇（藤沢御所見病院院長/和歌山医大名誉教授）



このたび『今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版』が刊行された。本書は初版が26年前（1992年）に刊行され、その後も第2版，第3版と各時代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の治療学の粋を網羅するバイブル的テキストの役割を果たしてきている。

第3版から第4版に至る10年間は耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患概念の整理が進み，エビデンスに基づいた医療（EBM）が急速に普及し定着してきた。その結果，多くの診断基準や診療ガイドラインが提唱されている。さらに2017年に新専門医制度が開始され，耳鼻咽喉科専門医のための研修カリキュラムも発表された。このような10年を反映した第4版の特徴は，（1）最新最良の診療“事典”であること，（2）研修カリキュラムを遂行する上で必要十分な知識を習得することができること，（3）付録として巻末に研修カリキュラムの内容，診断基準，診療ガイドライン，身体障害者診断書・意見書の書き方などを掲載し，実地臨床において不可欠な情報を提供していること，以上3点にまとめられると考える。

診療“事典”であるために必要な条件は何であろうか。本編で収載された322項目は，評者が全項目を渉猟して取り上げられなかった項目を見出すことは不可能であり，耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域で考え得るほぼすべての疾患を網羅しており，十分に“事典”と言える。これらの項目を選択し，それぞれに対して本邦におけるエキスパートを執筆者として選任された日本耳鼻咽喉科学会理事長・森山寛慈恵医大名誉教授を

はじめとする5名の編集者のご苦労は並大抵ではなかったであろう。各疾患の解説は研修医だけでなく，専門医・実地臨床医に対しても十分に有益で満足するものである。「治療方針」の項では，診療ガイドラインに基づいて解説されている疾患も多く，実地臨床ですぐに使えるように具体的な治療内容が記載されており非常に役立つ。さらに「患者説明のポイント」ではエキスパートがその疾患をどのように捉え，患者へどのように伝えるのかが書かれており，いくつかの疾患におけるポイントを比較して読んでみると大変興味深く一読をお勧めする。第9章の「機能を代償する医療機器」では，近年著しい進歩を遂げている補聴器，人工内耳，人工中耳，CPAP（経鼻的持続陽圧加圧装置）などについての仕組み，適応，手術法，管理法などがわかりやすく解説されている。さらに第10章では「リハビリテーション」が独立して取り上げられ，日常臨床において知識が希薄になりやすい，難聴，めまい，耳鳴，言語障害，構音障害，嚥下障害などに対するリハビリテーションが過不足なく解説されており，大変有用である。

本書は大変コンパクトであり，その内容は全ての疾患が統一された形式で書かれ，カラー写真や図表もふんだんに挿入されているため，大変わかりやすく仕上がっている。忙しい臨床医が診療の場ですぐに参照できる座右の書として一冊置かれることを強くお勧めする。